

様式第2号（政務活動実施報告書）

30年 2月14日

井原市議会議長

西田 久志 様

井原市議会議員 多賀 信祥

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成30年2月7日（水）～8日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	宇佐市 直方市
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	大分県宇佐市 ・議員発議による条例の制定について 福岡県直方市 ・リサイクル事業の推進について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	宇佐市 大隈副議長、尾方主幹（総括）議事係担当、佐藤事務局員 直方市 篠崎課長、永芳係長
5. 活動内容	別紙の通り

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

別 紙

研 修 先	大分県宇佐市	期 間	平成 30 年 2 月 7 日 ～ 月 日	参 加 者	
目 的	議員発議による条例の制定について				
報告事項					
<p>常任委員会 産業建設常任委員会からの委員会発議とした</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市で視察研修を行った ・藤沢市の地産地消の推進に関する条例もモデルにした <p>具体的な取り組みとしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1期2期議員の7名で作業を進めて行った ・条例案の研修を職員から受ける ・前文については各委員で案を持ち寄る（川谷議員案は市民の歌から） ・決議をスムーズにするために委員会発議にした <p>※石川、和歌山、熊本などが詳細まで詰めた条例になっている</p> <p>◎推進推奨条例であるためパブリックコメントは実施していない</p> <p>◎法制担当職員の方から2時間程度レクチャーをしてもらった</p> <p><所感></p> <p>宇佐市では、市町村合併を行い、新市の調和も意図し前文を作られたことに感銘を受けた。 推奨条例であるがいくつかの問題点を解消して実現されたと伺った。 本市でも同様の条例提案に向けて、法制の研修、商工会議所との連携、そして執行部や他の議員の方に理解をしていただけるように活動を開始したい。</p>					

別 紙

研 修 先	福岡県直方市	期 間	平成 30 年 2 月 8 日 ～ 月 日	参 加 者	
目 的	リサイクル事業の推進について				
報告事項					
<p>井原市との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収場所での資源ごみ回収の頻度が少ない（月 1 回程度） <p>市民との協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけてリサイクルに対する意識を高めて協力をしてもらうことに重点をおいている <p>集団回収をされている団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々減少している ・回収量の計画値を設定し奨励金基準額の見直しを行っている <p>資源拠点回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大牟田市に職員の方が研修に行き実施に至った ・自治会未加入世帯に向けて作った経緯もある <p>※年に 1 度は必ず全 11 小学校区で出前講座を行う（30 分程度）</p> <p>※集団回収との連携で収集日が少なくても市民から協力を得られている</p>					
<p><所感></p> <p>直方市ではリサイクルに対する意識が高いと感じた。それはごみ減量化という明確な目標に向かって行政、市民が協力するというを長い年月をかけて共通認識としたことに起因すると思う。</p> <p>継続して年に一度は必ず各地区で説明会を行うことや、新たに資源拠点回収や集団回収の見直しなど絶えず工夫と努力をされているように思った。</p> <p>業者の設備の問題や処理場の設備、立地、また大きくは長い間のごみ処理の習慣が大きく関係してくるので井原市にそのまま置き換えることは難しい。しかし、出前講座の定期化や資源拠点回収の考え方は今後の井原市にとっても参考になると感じた。</p>					